

農林水産省・文部科学省後援

合格への
必須
アイテム

2024年版

日本農業技術検定 過去問題集

日本農業技術検定協会

事務局 一般社団法人
全国農業会議所 編



2級

試験問題2回分
(2023年度)
を収録

はじめに

日本の農業は、世界の食料需給や農産物貿易が不安定化するなかで、将来にわたって食料生産を維持・発展させることへの期待が、これまで以上に高まっています。また、国土や自然環境の保全、文化の伝承など多面的機能の発揮についても、その促進が図られているところです。

こうした役割を担う農業にやりがいを持ち、自然豊かな環境や農的な生き方に魅力を感じて、さらにビジネスとしての可能性を見出して、新規に就農する人や農業法人、農業関連企業等に就職して意欲をもって活躍する人たちは少なくありません。

自然を相手に生産活動を行う農業や農業に関連する職業に携わるには、農業の知識や生産技術をしっかり身につけることが重要になります。日々変化し発展する農業技術を有効に活用するためには、農業についてのしかるべき知識や技術の理解が必要不可欠です。

日本農業技術検定は、農林水産省と文部科学省の後援による、農業系の高校生や大学生、就農準備校の受講生、農業法人など農業関連企業の社会人を対象とした、全国統一の農業専門の検定制度です。就農を希望する人だけでなく、学業や研修の成果の証として、またJAの職員など農業関係者によるキャリアアップのための取り組みをはじめ、農業の知識や技術を身につけるために受験活用されています。毎年2万人を超える受験者がチャレンジをして、これまでの受験者累計は36万人に達しています。

本検定の2級試験は「農作物の栽培管理等が可能な基本レベル」で、3級よりも応用的な専門知識や技術を評価します。5択式のマークシートになり、選択科目も6科目（作物、野菜、花き、果樹、畜産、食品）に広がり、内容的にも高度になります。本書で過去問題を点検して、本検定の「2級テキスト」で内容をしっかりと確認しながら勉強されることをお勧めします。2級を受験して農業知識や生産技術のレベルアップを図り、その習得した能力を就農や進学・就職に役立ててください。

2024年4月

日本農業技術検定協会
事務局・一般社団法人 全国農業会議所

本書活用の留意点

◆実際の試験問題は A4判のカラーです。

本書は、持ち運びに便利のように、A4判より小さい A5判としました。また、試験問題の写真部分は本書の巻頭ページにカラーで掲載しています。

◆◆CONTENTS◆◆

はじめに

本書活用の留意点

日本農業技術検定ガイド

- | | |
|--------------|---|
| 1 検定の概要 | 2 |
| 2 勉強方法と試験の傾向 | 6 |
| 3 出題領域 | 8 |

2023年度 第1回 試験問題 17

2023年度 第2回 試験問題 105

解答・解説編 (別冊)

- | | |
|---------------|----|
| 解答一覧 | 2 |
| 2023年度 第1回 解説 | 4 |
| 2023年度 第2回 解説 | 37 |
| 解答用紙 | 69 |

日本農業技術検定 ガイド

1 検定の概要

●●●日本農業技術検定とは？●●●

日本農業技術検定は、わが国の農業現場への新規就農のほか、農業系大学への進学、農業法人や関連企業等への就業を目指す学生や社会人を対象として、農業知識や技術の取得水準を客観的に把握し、教育研修の効果を高めることを目的とした農業専門の全国統一の試験制度です。農林水産省・文部科学省の後援も受けています。

●●●合格のメリットは？●●●

合格者には農業大学校や農業系大学への推薦入学で有利になったり受験料の減免などもあります！ また、新規就農希望者にとっては、農業法人への就農の際のアピール・ポイントとして活用できます。JA など社会人として農業関連分野で働いている方も資質向上のために受験しています。大学生にとっては就職にあたりキャリアアップの証明になります。海外農業研修への参加を考えている場合にも、日本農業技術検定を取得していると、筆記試験が免除となる場合があります。

●●●試験の日程は？●●●

2024年度の第1回試験日は7月6日（土）、第2回試験日は12月7日（土）です。第1回の申込受付期間は4月25日（木）～5月31日（金）、第2回は9月30日（月）～10月30日（木）となります。

※1級試験は第2回（12月）のみ実施。



● ● ● 具体的な試験内容は？ ● ● ●

1級・2級・3級についてご紹介します。試験内容を確認して過去問題を勉強し、しっかり準備をして試験に挑みましょう！

(2019年度より)

等級		1級	2級	3級
想定レベル		農業の高度な知識・技術を習得している実践レベル	農作物の栽培管理等が可能な基本レベル	農作業の意味が理解できる入門レベル
試験方法		学科試験＋実技試験	学科試験＋実技試験	学科試験のみ
学科試験	受検資格	特になし	特になし	特になし
	出題範囲	共通：農業一般 ＋ 選択：作物、野菜、花き、果樹、畜産、食品から1科目選択	共通：農業一般 ＋ 選択：作物、野菜、花き、果樹、畜産、食品から1科目選択	共通：農業基礎 ＋ 選択：栽培系、畜産系、食品系、環境系から1科目選択
	問題数	学科60問 (共通20問、選択40問)	学科50問 (共通10問、選択40問)	50問 (共通30問、選択20問) 環境系の選択20問のうち10問は3分野(造園、農業土木、林業)から1つを選択
	回答方式	マークシート方式 (5者択一)	マークシート方式 (5者択一)	マークシート方式 (4者択一)
	試験時間	90分	60分	40分
	合格基準	120点満点中 原則70%以上	100点満点中 原則70%以上	100点満点中 原則60%以上
実技試験	受検資格	受験資格あり※1	受験資格あり※2	－
	出題範囲	専門科目から1科目選択する生産要素記述試験(ペーパーテスト)を実施(免除規定あり)	乗用トラクタ、歩行型トラクタ、刈払機、背負い式防除機から2機種を選択し、ほ場での実地研修試験(免除規定あり)	－

※1 1級の学科試験合格者。2年以上の就農経験を有する者または検定協会が定める事項に適合する者(JA 営農指導員、普及指導員、大学等付属農場の技術職員、農学系大学生等で農場実習等4単位以上を取得している場合)は実技試験免除制度があります(詳しくは、日本農業技術検定ホームページをご確認ください)。

※2 2級の学科試験合格者。1年以上の就農経験を有する者または農業高校・農業大学校など2級実技水準に相当する内容を授業などで受講した者、JA 営農指導員、普及指導員、大学等付属農場の技術職員、学校等が主催する任意の講習会を受講した者は2級実技の免除規定が適用されます。

2023年度 第1回（7月8日実施）

日本農業技術検定 2級 試験問題

- ◎受験にあたっては、試験官の指示に従って下さい。
指示があるまで、問題用紙をめくらないで下さい。
- ◎受験者氏名、受験番号、選択科目の記入を忘れないで下さい。
- ◎問題は全部で50問あります。1～10が農業一般、11～50が選択科目です。
選択科目は1科目だけ選び、解答用紙に選択した科目をマークして下さい。
選択科目のマークが未記入の場合には、得点となりません。
- ◎すべての問題において正答は1つです。1つだけマークして下さい。
2つ以上マークした場合には、得点となりません。
- ◎試験時間は60分です（名前や受験番号の記入時間を除く）。

【選択科目】

作物	p.22～33
野菜	p.34～48
花き	p.49～63
果樹	p.64～79
畜産	p.80～92
食品	p.93～103

解答一覧は、「解答・解説編」（別冊）の2ページにあります。

日付			
点数			

農業一般

1

食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立のためのイノベーションを推進し、持続可能な食料供給を実現するために、農林水産省が2021（令和3）年5月に策定した方策として、最も適切なものを選びなさい。

- ① 農業競争力強化支援法
- ② みどりの食料システム戦略
- ③ 6次産業化法
- ④ 地球温暖化対策計画
- ⑤ 食料・農業・農村基本計画

2

わが国の2021（令和3）年における農林水産物・食品の輸出の説明として、最も適切なものを選びなさい。

- ① 国・地域別ではアジアやアメリカよりもEUへの輸出額が多い。
- ② 品目別の輸出額は、多い順に林産物、農産物、水産物となっている。
- ③ 海外市場の低迷により販路拡大が難しく、輸出額は伸び悩んでいる。
- ④ 輸出額は政府が目標に掲げた1兆円を初めて超えた。
- ⑤ 2030年には輸出額1兆円を目標に輸出拡大を進めている。

3

わが国の農地に関する説明として、最も適切なものを選びなさい。

- ① 農業経営を目的とした農産加工や堆肥等の施設用地は農地に含まれる。
- ② 農地を転用する場合は、市町村農業委員会の許可が必要である。
- ③ 市街化区域内の農地を転用する場合は届け出だけで許可は不要である。
- ④ 農地の権利移動により、宅地など農業以外での活用を促進することを農地の流動化という。
- ⑤ 農地を所有または借り入れて、利用する農地面積を拡大することを、農地の集約化という。

4 □□□

食品の生産から加工・処理、流通、販売までの過程を明確に記録して、食品の行方を追跡したり、出所をつきとめられるようにすることを何というか、最も適切なものを選びなさい。

- ①ユニットロードシステム
- ②トレーサビリティシステム
- ③コールドチェーン
- ④リアルタイムシステム
- ⑤モーダルシフト

5 □□□

経営は「設計（計画）→実行（運営）→診断（反省・評価）」を繰り返すことにより、経営の改善を図りながら進められる。この繰り返しのことを何というか、最も適切なものを選びなさい。

- ①コスト・リーダーシップ戦略
- ②マーケティング戦略
- ③マーケティングサイクル
- ④マネジメントサイクル
- ⑤プロダクトライフサイクル

6 □□□

簿記において、仕訳帳から総勘定元帳への転記が正しく行われたかどうかを確かめるために作成する表として、最も適切なものを選びなさい。

- ①貸借対照表
- ②損益計算書
- ③総勘定元帳
- ④精算表
- ⑤試算表